

じえい えい おおき

ぶかい

## JA王喜タケノコ部会

## ～王喜タケノコのブランド復活！～



増えた会員や協力者



観光たけのこ園

## 経緯

○戦前「松屋タケノコ」というブランドとして知られ、地元JAに「王喜タケノコ部会」も設立されたが、安価な輸入筍の増加により、筍生産のビジネスが成り立たないため、高齢化もあり会員が4名と減少していた。山口県は日本で4番目に竹林が多い県であるため、「筍は何もしなくても生えてくる」「筍はもらうもの」という消費者意識がある。さらにコロナ禍によりタケノコの消費が落ち込んだ。

## 取組内容

- 高品質筍生産の指導  
生産者の確保や所得向上のため地区内外で生産の講師を務めた。
- 観光タケノコ園の運営  
放置竹林発生防止や、都市住民との交流による関係人口創出のため、ゲーミフィケーションの考えを取り入れた体験イベントを実施。
- 外国人の竹林整備体験の受入  
筍や日本の情景をPR。

## 活動の効果

- 4名まで減少していた部会員数が、高品質筍生産の指導をした結果、筍生産者が2名増え、地域活性化や集落の所得向上に寄与。
- 過酷な筍生産に関係する作業を、観光タケノコ園で楽しめる体験とすることで、都市住民の参加が増え、関係人口を創出。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

会員数が減り放棄竹林が目立ってきたことから、放棄竹林対策として始めた都市住民が参加できる体験プログラム等の新しい取り組みを始めたことを契機に、若者2名が会員として加入するなど、新しい風が吹いている。

## 住所・電話番号・SNS等

下関市松屋上町3-1745 Tel:083-282-4074

奨励賞

しものせきしとよたちいきこういききょうていうんえいいんかい

## 下関市豊田地域広域協定運営委員会

～100年後も豊かな環境を地域一丸で守る！～



地域の代表者による検討会



農道沿いのシバザクラの手入れ

## 経緯

○基盤整備完了後、土地改良区等を中心に施設の維持管理を行っていたが、農業者の減少や高齢化等により、持続的に施設を維持管理することが困難となっていた。平成19年度から始まった「農地・水・環境保全向上対策」等を活用し、「多面的機能支払交付金」に移行後も継続して各集落で地域の共同活動に取り組んできたが、更なる活動発展のため令和元年度に土地改良区が中心となり、旧町全域での広域活動組織を設立した。

## 取組内容

○各支部代表者と事務局である土地改良区で構成する広域協定運営委員会では、広域協定全体に係る運営方針の決定、事務処理を実施。多面的機能支払交付金の煩雑な事務を事務局（土地改良区）が引き受け、各班が共同活動に専念できる活動体制を構築。

○「ホタルといで湯の里」として知られる地域であることから、ホタルの生息環境に配慮した営農活動（水田からの川への濁水流出防止）に取り組むとともに、農道沿いでのシバザクラの植栽などの景観形成活動にも取り組む。

## 活動の効果

○農業者が高齢化する中、煩雑な事務作業が負担となり活動継続を断念する集落も出てきていた。そこで、平成31年4月に土地改良区が中心となり3組織（43集落）を広域統合し、旧町全域をカバーする広域活動組織を設立した。事務作業を土地改良区が担うことで各集落は共同活動により専念できるようになった。また、地域計画作成の話合いやため池点検パトロール等、行政と連携した取組も進めやすいという副次効果も生まれている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

本地域においては、ほとんどの農業者が土地改良区の組合員であったことや、旧豊田町はもともと1町1土地改良区で運営していたこと等もあり、地域の代表を集めた広域化に関する話合い等も土地改良区を中心に進めやすい環境であった。実際に旧町全域を区域とする広域活動組織として運営することにより、地域内での情報の共有化や連携強化がこれまで以上に進むとともに、行政と一体となった地域活動にも取り組みやすくなってきていると感じている。

## 住所・電話番号・SNS等

下関市豊田町大字殿敷1918-1 Tel:083-766-2852(下関市豊田町土地改良区)

かぶしきがいしゃきはらせいさくしよ  
株式会社木原製作所

## ～乾物プロジェクト地域振興事例を世界に発信～



グローバル知財戦略フォーラム事例発表



タシケント工科大学事例発表

## 経緯

- 平成22年、山口市が新たな地域産業戦略の構想を開始したことを受け、「乾燥技術」を地域資源として活用し、複数団体とのドライフード商品開発と圏域ブランドの構築を市に提案。
- 平成23年、乾燥食品の開発販売を軸とした国内初の地域振興事業「山口から”Kanbutsu”を発信。」プロジェクトが総務省で採択され、本格的な活動を開始。

## 取組内容

- 企画立案、機器技術提供、試作開発、デザイン、販売方法等のアドバイスや商標登録、イベント等を活用した発表方法等を無償サポートし、商品開発をサポート。
- 令和5年、経済産業省中央アジアミッションに参加しウズベキスタンを訪問。農業省、投資貿易省等に事例発表。同年4月タシケント工科大学(ウズベキスタン)の国際会議にて廃棄物の収益化事例の発表・論文掲載。

## 活動の効果

- 平成24年に、農林水産大臣から機械メーカーでは全国初となる「ボランタリープランナー」任命。
- テレビ、新聞、ラジオ等の各メディアで多数紹介され、商品売上と地域PRに貢献し、海外政府機関からも注目を集める。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

1次産業の高付加価値化がより深刻な課題となっている海外に対し、課題解決の事例として情報発信に努め、コロナ禍収束後には日本国内のインバウンドやSDGs「飢餓をゼロに」「持続可能な産業開発」にも貢献できるよう引き続き取り組む。

## 住所・電話番号・SNS等

山口市秋穂西3106-1 Tel:083-984-2211 URL:<https://www.kiharaworks.com/>

のうじくみあいほうじん にじゅういっせいき

## 農事組合法人 21世紀フラワーファーム

～ 安心・安全なものを愛情を込めて作る農園 ～



6次産業で初めて作ったシフォンケーキ



農業体験



親子で愛情込めて

## 経緯

- 昔から農業に興味があり、退職したのを契機に本格的に農業を始め、その後、「若い人にも農業をして欲しい」「農業で安定した収入を得たい」と考え、平成23年に「農事組合法人21世紀フラワーファーム」を設立。
- 自分たちが愛情を込めて作った作物を自身で加工し、販売できる魅力に惹かれ6次産業に取り組み始めた。

## 取組内容

- 安心・安全な物を作る為に、7年前から農園全ての作物を化学肥料なし、農薬不使用で栽培を始めた。
- シフォンケーキやジャムを当農園内の加工所で製造。加工所で製造困難なパイアのドレッシングやうどん、お茶などは、外部委託により製造。
- ブルーベリーの摘み取り体験に加え、下松市の観光を盛り上げたいとの思いから、野菜の収穫体験やジャム作り体験も始めた。

## 活動の効果

- 6次産業化を始めたことにより、ジャムやパイアや茶など、メディアにも取り上げられ、農園の認知度の向上にもつながっている。
- 有機栽培のネット販売の会社と契約を結び、生のブルーベリーや冷凍のブルーベリーを全国に届けられるようになった。
- 農業体験を通して、都市部の子供達等との交流が図られるようになった。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

農業は天候に左右されやすいため悪戦苦闘していますが、元気に楽しくやっています。これからも、安心・安全な作物を愛情を込めて作り、子供達にも「農業の大切さ、楽しさ、大変さ」を体験できるような取り組みを進めていきます。

住所・電話番号・SNS等

下松市大字来巻958番地 TEL: 0833-57-4855 URL: <http://www.kvision.ne.jp/~kvn2132651/index.html>



かぶしきがいしゃ しんとう

## 株式会社 神東ファーム

～マイヤーレモンで地域を元気に！～



11月頃のマイヤーレモン



レモン部会メンバー



小学生の農業学習

## 経緯

- 人口減少と高齢化により地域農業が衰退。それに伴い耕作放棄地が拡大し、景観の悪化や災害リスクが増加。
- 平成30年(2018年)、検討の結果、若者が就農できる基盤を作るため、耕作放棄地に希少価値の高い新しい品目の「マイヤーレモン」の栽培を始めた。

## 取組内容

- 地域おこしのため、「レモンの会」を発足し、耕作放棄地を再生。西日本では珍しい「マイヤーレモン」を栽培。
- 「マイヤーレモン」の生果だけでなく、果汁に加工して販売。これらの販路開拓は地元金融機関の協力を得た。
- 将来、地域を担う地元小学生を対象に、農業体験学習を実施。

## 活動の効果

- 耕作放棄地を再生し、「マイヤーレモン」を栽培することで、災害リスクの低減や景観形成に貢献。
- 地域おこしを目指す取組はメディアにも取り上げられ、収益力向上につながり、地域住民のモチベーションがアップ。
- 農業体験学習は、地域や農業の素晴らしさを体験させることで将来を担う人づくりに貢献。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

「マイヤーレモン」はオレンジとの交配種で、酸味がまろやかで料理や飲み物に使える食材として高評価をいただいています。ぜひご賞味ください。

## 住所・電話番号・SNS等

岩国市由宇町神東10619-4 TEL:0827-63-6036

かぶしきがいしゃ

## 株式会社 デナリファーム

～耕作面積拡大に農福連携でシナジーを～



耕作放棄地を再生



障害者就労施設へのコンテナ清掃委託



小学生の課外事業を受入れ

## 経緯

- 以前から農業に興味があった学生時代の友人であり、元海上自衛官だった二人が令和元年設立。
- 農業で生活するのは無理と諦めていたが、「こうやったら農業で生計をたてられるのでは？」と仮説を立てていくうちに意識も変わりチャレンジに踏み切った。

## 取組内容

- 問題を問題で解決する取組  
「農業従事者の減少や耕作放棄地増加の問題」と「雇用の場が少ない、定年の年配者や短時間希望の障がい者」で各問題を解決。
- 地元小学校と農業交流を通じ、食や農業をトータルで体験することによって「将来に夢を持つことの大切さ」を発信。
- 子供食堂への食材提供や苺のシーズンに毎月15日に苺を小学校に差し入れすることで、農業を身近に感じてもらう取組。

## 活動の効果

- 雇用しているスタッフはシフトなしの自由出勤制度で、子育て世代の女性スタッフが中心で、時間の都合がつけやすく、とても働きやすいと好評。
- スタッフと作業管理のノウハウを蓄積し、将来、定年後の年配者や、障がい者雇用につなげる基礎を構築。
- 子供食堂の食材提供、小学校への毎月15日のイチゴの差し入れで農業を身近に感じてもらった。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

継続可能な農業経営の確立を目指し、経営理念の、生産と販売共に安定した売上に努力し、スタッフ・家族・お客・取引先・会社の五方良しを目指して取り組む。

住所・電話番号・SNS等

岩国市由宇町神東1330番地2 Tel: 0827-93-4037

のうじくみあいほうじん  
農事組合法人つかり

～特産品の開発で自慢のイチゴと地域をPR～



イチゴの生産現場を見学



試飲モニタリング



商品発売イベントで中学生に感謝状贈呈

### 経緯

- 平成14年に、水稻・大豆栽培を主として法人を設立。
- 法人経営の安定化や地域の特産品を作ろうと、平成26年にいちご栽培を開始。
- いちごを主として地域経済の活性化を目標に、6次産業化の推進による地域雇用の創出と「地域を盛り上げたい」という思いから、いちごを活用した特産品の開発をスタート。

### 取組内容

- 贈答用として販売しているいちごのうち、規格外のいちごを同法人が運営する「ツカリベリーズ」(スイーツショップ)で使用し、ケーキやパフェなどの加工品として販売。
- 地元事業者の特色を生かした、地域や地元中学生との連携による、新しい特産品を開発。

### 活動の効果

- 新たに開発した「光のいちごと甘酒」のパッケージデザイン案を地元中学校の生徒に依頼し、市内デザイナーが仕上げるなど、地域が一丸となって取り組む。
- 新たな商品の製造・販売により、新聞などで取り上げられ、地域の知名度向上につながり売上げが向上し、地域経済への活性化に貢献。
- 地元中学生は、地域産業を知るきっかけとなり、地域事業者と交流する機会ができたなど、地域への関心・愛着の向上につながる。

### 応募団体からのアピール・メッセージ

光セレクション・周南ものづくりブランドに認定された「光のいちごと甘酒」を、光市の新たな特産品として全国に発信することで、自慢のいちごをもっと広め、地域農業の振興を図り、活力に満ちた魅力あふれる地域社会の実現を目指します。

住所・電話番号・SNS等



光市大字東荷2463番地3 TEL : 0820-48-2511 ツカリベリーズ URL : <https://www.facebook.com/tsukariberrys.hikari/>

とくていひえいりかつどうほうじん

たなだけいかんほぞんかい

## 特定非営利活動法人 ゆや棚田景観保存会

～ときめく棚田大作戦！～



棚田の再生農地にハーブを植付



放棄された棚田を活用し遊び場を整備



夕涼み棚田マルシェ

## 経緯

- 棚田地域では、高齢化・過疎化の進行により、耕作放棄地が増え棚田景観の維持・保全が困難となるなか、長門市棚田保護条例が制定され、地域での6次産業化やグリーンツーリズムへの気運の高まりをきっかけに保存会を設立。
- 棚田保全計画を策定し、棚田景観の保全・継承に取り組んでいる。

## 取組内容

- 「ときめく棚田大作戦」と称し棚田再生プロジェクトを実行中。棚田にハーブや花を植付け、景観保全と6次産業化や鳥獣害対策など活用方法を模索。
- 棚田広場の遊び場設置(単管キューブ・ハンモック)やフォトジェニックの演出、農産物の供給促進のため、棚田マルシェを開催。

## 活動の効果

- 棚田や地域資源を活用したイベント(棚田マルシェ)を行い、交流人口や交流事業が増え、新しい棚田としての付加価値が付いてきた。
- これまでの取組により、クルージングバスツアーの受入が始まるなど、さらなる交流人口の増加が見込め、地域の活性化につながる。
- ハーブによる6次産業化で、新しいハーブの栽培と栽培面積の拡大を行う。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

棚田の花段に「ダイナミックドッグラン」がオープンしました。棚田へハーブ等を入植し、美しい景観を守りながら交流人口の増加に繋がるよう、カフェや雑貨店等の事業を展開し、ICTを活用した顧客獲得や情報発信に取り組むなど、棚田再生プロジェクト「ときめく棚田大作戦」に引き続き挑戦します。

## 住所・電話番号・SNS等

長門市油谷後畑1766番地 TEL：事務局 0837-32-2056 URL：http://yuya-tanada.com/



## みすみすみ～コラボでSDGsに挑戦～



森林環境教育：製炭体験



灰の有効利用(大学生との協働)

## 経緯

○炭の需要低迷、輸入量増加により、農山村では、製炭が行われなくなり、薪炭用の里山が荒れた。都市では、飲食業（焼き鳥）で良質な炭の入手が困難となった。

コロナ禍の影響で、安心・安全の提供や都市と農山村の繋がり的重要性が高まるなか、「長門市を盛り上げたい」との想いと一致し、協働で製炭を始めた。

## 取組内容

- 令和2年度から作業道を修復し、荒れた里山の整備を行い、炭を焼き鳥店へ納品。
- 本取組をマスメディア等で情報発信に努め、地元の炭を使う意義を紹介。
- 地域資源の循環利用をSDGs学習として都市住民や地元中学生を対象に体験会を開催。
- 地元漁協や大学生と連携し、廃棄される漁網を活用した鳥獣被害対策を行う。

## 活動の効果

- 森林整備・炭焼き→焼き鳥→灰の活用という地域資源の循環利用を実現。
- SDGsの取り組みを追究することで経済活動に繋がる可能性を示す。
- 事業規模の拡大を目指すため、若者移住者1名が新たに炭焼きを開始。品質・生産性向上のため、炭窯を新たに築窯した。
- 藍染め作家より、「灰を藍染めに使用したい」と申し出があり灰を提供する。文化的分野においても貢献。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

三隅地区で製炭し使用後の灰を循環利用することから、回文となる「みすみすみ」とネーミング。今後も地域資源と循環利用の意義を広く周知していきたい。

## 住所・電話番号・SNS等

長門市東深川332-79 Tel:0837-22-3123

奨励賞

かぶしきがいしや こうげんかいはつ  
株式会社 かの高原開発

～特産品開発で地域と共に未来の宝づくり～



社員等で茶摘みし、自社で加工



福祉施設でのパック作業



鹿野和紅茶 なごみ 完成

## 経緯

- 平成8年、鹿野地区の観光の興隆・地域の活性化のため周南市の第三セクターとして設立。
- 平成27年から、歴史あるお茶文化の再興と新たな特産品開発を目指した活動を開始。
- 平成30年から、周南市共創プロジェクトで地域高齢者と障がい者就労支援施設と連携し、和紅茶づくりを開始。

## 取組内容

- 伝統の継承：鹿野のお茶は、室町時からの歴史があり、現在も庭先等に自生。手摘みされた茶葉を「鹿野和紅茶」に加工。
- 高齢者介護予防：高齢者が自宅で摘んだ茶葉をサロンに届けることで外出を促進。
- 農福連携：周南市、(福)鹿野福祉会・ふれあい作業所「鹿音」と連携し、鹿野和紅茶のティーバックを製造。

## 活動の効果

- 鹿野和紅茶により、お茶文化の復興や、鹿野地域の経済の循環と共に鹿野茶を見直すきっかけになった。
- 鹿野地域の高齢者が自宅近所等の茶葉を摘んで、石船温泉憩の家のサロンに届けることで、高齢者の介護予防と外出を促すことができた。
- 農福連携による鹿野和紅茶のティーバック製造で、障がい者雇用の拡大や生きがいづくりの創出につながり、鹿野和紅茶は周南市の農福連携商品として、ふるさと納税返礼品に選定された。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

鹿野地域に眠る茶の木を呼び起こし、地域の人々と新たなお茶文化の歴史を創れるよう、地域固有のお茶文化の復興と次世代への継承を目指し、中山間地域の産業発展と雇用拡大へ繋げるため、販路をもっと拡大し山口県の特産品となるよう目指します。

住所・電話番号・SNS等

周南市大字鹿野上3516 TEL: 0834-68-1234

URL: <https://kanokougen.com>